

平成29年産 麦作ごよみ

福岡京築農業協同組合
京築普及指導センター

〈選ばれる「京築の麦づくり」運動〉

- ・需要に応じた品種の作付
- ・品質向上と収量安定
- ・土壌改良材施用による土づくり

〈土壌改良材の施用〉

酸性障害防止のため、土壌改良材を散布しましょう。

(生育不良田は、必ず土壌改良材を散布して下さい)

消石灰(100kg/10a), ミネラルG(160kg/10a), 細粒苦土石灰(200kg/10a)

〈品種特性表〉

麦種	品種	出穂期	成熟期	倒伏	栽培上の留意点
ビール大麦	しゅんれい	4.8	5.20	やや強	皮が薄いので、早刈りを避ける
大粒大麦	はるしずく	4.8	5.21	強	早播きは避ける
小麦	チクゴイズミ	4.12	6.1	やや強	適期収穫に努める

〈基本技術の励行〉

- ・排水対策の徹底
- ・土入れ・麦踏みの実施
- ・赤かび病防除の実施(必須)
- ・適期刈り取りの遵守

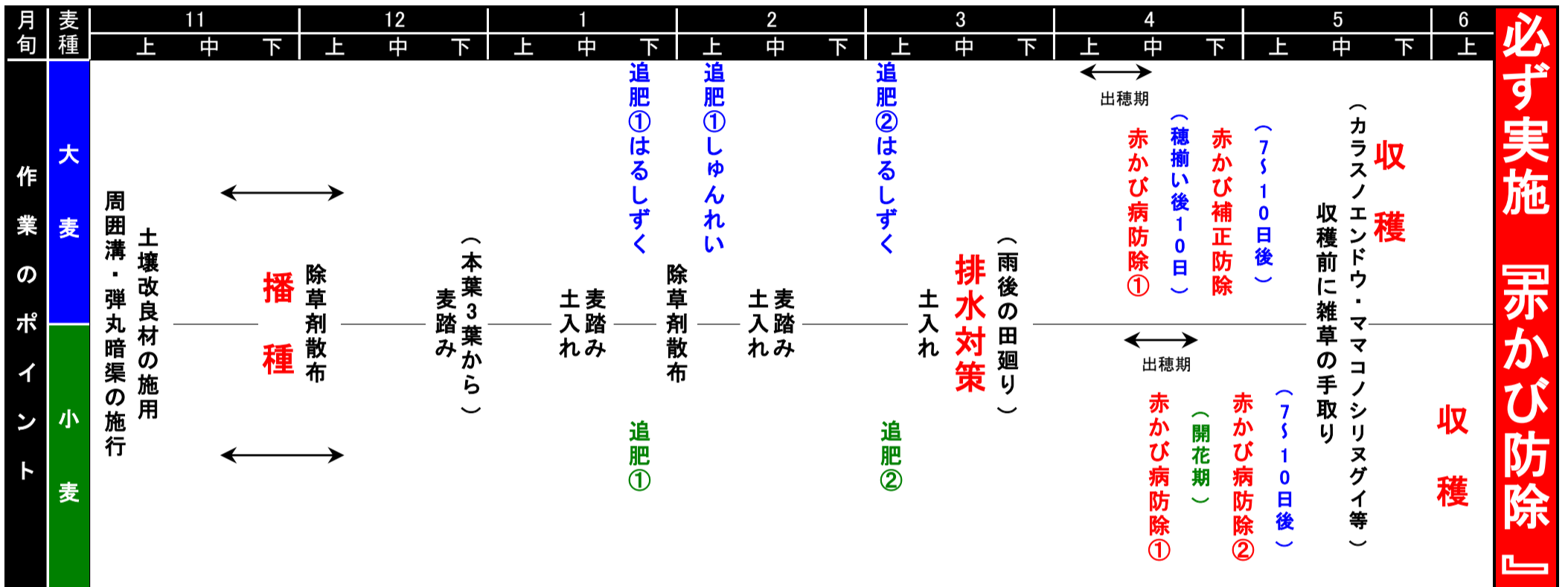
〈播種準備〉

- ・種子更新率100%
- ・種子消毒: 種子1kgに対し、トリフミン水和剤を5g粉衣

〈播種適期〉

品種	地帯	播種適期	播種量	遅播き	播種量
しゅんれい	平坦地	11.15~12.5	7 kg	~12.25	9~10 kg
	山麓地	11.10~11.30		~12.15	
はるしずく	平坦地	11.20~12.10	5 kg	~12.25	6~7 kg
	山麓地	11.15~12.5		~12.20	
チクゴイズミ	全域	11.15~12.5	6~7 kg	~12.15	9~10 kg

※早播きは、凍霜害をうけ減収したり、品質が悪くなったりするので避ける



〈除草剤〉

耕起前	液剤	ラウンドアップマックスロード	耕起前 播種後出芽前	200~500ml	50~100ℓ
播種時・雑草出芽期	粒剤	リベレーターG	播種後~麦2葉期まで	4~5kg	—
		サターンバアロ粒剤	播種後~麦4葉期まで (雑草発生前~雑草発生始期)	3~5kg	—
		キックボクサー細粒剤F	播種後雑草発生前	3~4kg	—
	液剤	リベレーターフロアブル	播種後~麦3葉期まで	60~80ml	100ℓ
生育期	液剤	サターンバアロ乳剤 (砂壤土除く)	播種直後~麦出芽前	500~750ml	70~100ℓ
		ボクサー	播種後~麦2葉期まで (小麦は播種後~麦4葉期まで)	400~500ml	70~100ℓ
		アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで (広葉雑草生育初期)	100~200ml	70~100ℓ
		ハーモニー75DF 水和剤	麦1葉期~節間伸長前 スズメノテッポウ5葉期まで カズノグサ1~3葉期まで	5~10g 10g	100ℓ

※覆土が薄い場合や土塊が大きい場合は、薬害がでやすいので土塊を細かくする

※土が乾燥している時には水量を多くするほど効果が高い

◎ハーモニー75DF水和剤使用時の注意事項

- ・周辺に野菜がある場合は飛散により薬害を生じるので使用しない
- ・散布器具(動噴・ホース・タンク)は使用後、乾かないうちに添付の石灰を使って充分洗浄する
- ・ハーモニー75DF水和剤を使用したホースは野菜では使用しない

抵抗性雑草対策のため、播種後土壌処理材との体系処理で使用する

〈施肥基準〉

品種	基肥 ベスト化成444	追肥①(1月下旬) BB606号 追肥化成34号	追肥②(3月上旬) 硫安
しゅんれい	40 kg	2月上旬 15~20 kg (中山間地10 kg)	—
はるしずく	30 kg	15~20 kg 一発追肥 麦追肥名人 25kg	10 kg
チクゴイズミ	40 kg	15~20 kg 一発追肥 たんば君 25kg	10 kg

※大豆跡では基肥を50~100%、追肥を0~50%減肥する

※小麦では蛋白含有率向上のため、一発追肥又は2回目の追肥(硫安)を実施する

〈赤かび病防除〉

小麦の防除適期 1回目 開花期(出穂期後7~10日頃)~開花最盛期

大麦の防除適期 1回目 穂揃期の約10日後(出穂期後12~14日頃)

※2回目の防除は1回目の防除の7~10日後 (10aあたり)

薬剤名	使用量 希釈倍率	散布水量	備考
ワークアップ粉剤DL	3kg	—	収穫7日前まで 3回以内
トップジンM粉剤DL	4kg	—	収穫14日前まで 小麦2回・大麦1回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	60~150ℓ	収穫7日前まで 3回以内
シルバキュアフロアブル	2,000倍	60~150ℓ	小麦 収穫7日前まで 大麦 収穫14日前まで 各2回以内

※小麦の赤かび病防除は、必ず2回実施

※大麦は降雨の多い年は2回防除を行って下さい

〈収穫時の留意点〉

早刈りを避け、適期刈り取りの励行

農業散布時には使用基準を遵守し、周辺作物への飛散に注意しましょう!

(H28. 8作成)

収量・品質アップの3つのポイント!

土壌改良材散布!

排水対策! 雑草対策!

基本管理を徹底しましょう!

